平成２９年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　高知県　】

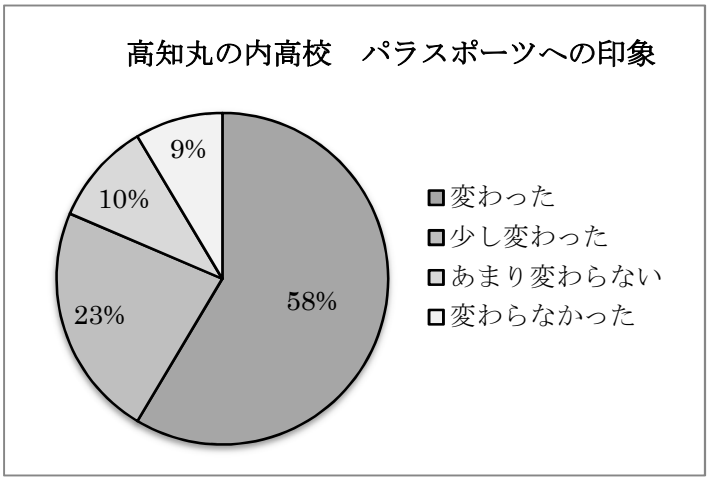
１実践テーマ	【　Ⅰ　Ⅴ　】
２実施対象者	高知県立高知丸の内高等学校 ①　事前学習・事後学習　１年次生（166名） ②　講演・実技体験　全校生徒（496名）、教職員（30名）
３展開の形式	（１）学校における活動 ①教科名（　保健体育　　） ②行事名（　講演は学校行事　） ③ その他（　　） （２）地域における活動 ① イベント名（　　） ② その他　（　　）
４　目　標 （ねらい）	オリンピック・パラリンピックを通じて「スポーツの価値や効果」、「障害者スポーツ」、「郷土や外国の文化」などに関する学びの機会を提供し、県民のスポーツに対する理解を深め、大会後も県民が主体的、積極的にスポーツ活動に参画する持続可能なスポーツ環境づくりにつなげるとともに、オリンピック・パラリンピックへの県民の意識を高め、2020 年東京大会に多くの県民が主体的に取り組む機運の醸成を図る。
５　取組内容	高等学校及び特別支援学校を中心に、学校の授業においてオリンピック・パラリンピックそのものについての学びと、オリンピック・パラリンピックを通じた「スポーツの価値や効果」、「障害者スポーツ」、「郷土や外国の文化」などの学びを展開する。 〇パラリンピアン（池　透暢氏）の講演・実技体験を中心とし、保健体育科教員による事前学習、事後学習を実施。 （１）事前学習 日時：平成 29 年 12 月 18 日（月）、21 日（木） 場所：高知丸の内高校　多目的教室 対象者：１年次生　（166 名） 内容：オリンピズム。オリンピズムの歴史。国際オリンピック委員会の活動。東京大会に出場が期待される県内選手　等。

５　取組内容	（２）講演・実技体験 日時：平成 29 年 12 月 22 日（金） 場所：高知丸の内高校体育館 対象者：全校生徒（496 名）、教職員（30 名） 講師：池　透暢氏（日興アセットマネジメント） リオデジャネイロパラリンピック ウェルチェアーラグビー日本代表キャプテン 銅メダリスト 演題：「挑戦することの大切さとスポーツの魅力」 （３）事後学習 日時：１月 15 日（月）、18 日（木） 場所：高知丸の内高校　多目的教室 対象者：１年次生　（166 名） 内容：事前学習、講演の振り返り。パラリンピックとは。スポーツの魅力等。 講演会の様子 実技体験の様子

事後学習の様子

６　主な成果

（１）アンケート（抜粋）



○つらい過去もあるし、つらい現実もある。それを諦めずに乗り越え生きる理由に変換できることを、私は素直に尊敬しました。
○いつもオリンピックの方ばかりに注目していたけど、パラリンピックにも注目すべきだったなと思いました。パラリンピックや障害者スポーツがとても身近なものに感じました。
○努力を重ねてこそ得たものに価値があるというのを聞いて、コツコツと努力し、挑戦することを恐れず夢をつかみ取りたいです。

この事業をきっかけに、生徒のいろいろなスポーツへの興味・関心が広がっていってもらいたいと願っています。

（２）地域セミナーへの参加

中核拠点である日本体育大学の担当者の方から、事業についての詳細な説明があり、取組についてのイメージができた。I'mＰＯＳＳＩＢＬＥの紹介もあり大変参考になった。

（３）実践発表

推進校の発表が他校で実践に参考になればよいと思う。

７実践において工夫した点（事業の特色）	地域セミナーで紹介のあった、I'mＰＯＳＳＩＢＬＥを活用して、事前学習、事後学習の内容を検討した。時間数に限りがあるため、ワークシートを作成し授業の中で活用した。
８主な課題等	全校生徒が講演を聴くことができたが、授業は時間割の都合上、１年生次生のみの実施となった。 オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料やI'mＰＯＳＳＩＢＬＥを活用し、継続した授業確保が効果的であると考える。
９来年度以降の実施予定	来年度も継続してオリパラ教育に取り組む予定。